

## ■ 編集だより

### 編集後記

どのくらい会員諸氏に受け入れられているか、どの程度役に立っているのか、いつもそのようなことを考えて月1回の本誌編集委員会に参加している。精神医学基幹学会の学会誌としての責任、114年の歴史を誇る伝統、時として聞こえてくる論文審査の厳格さなどは、ともすると格式を重んじた硬い内容の学術雑誌としての性格を思わせるが、学会誌の目的と編集方針は時代の要請と会員の要望に合わせて変わっていくべきものであり、編集委員、編集事務局の皆さんと相談しながら努力を続けている。

以前の本誌は、投稿論文、総会記事、学会活動記事がそれぞれ3分の1程度で構成されていた。考え方は、編集委員会が査読を担当した原著論文、学術総会で発表されたシンポジウムを掲載した総会記事、学会の各種委員会の活動報告というものであった。当時の学会誌の使命は、原著論文の発表の場であり、学術総会での発表をあまねく会員に伝達し、学会の委員会活動を詳細に会員に報告することであつたらう。

時代は変わり、原著論文は英文が主流となった。精神病理学の和文で投稿される原著論文があることは承知しているが、多くの精神医学論文が英文で発表されるようになった。同時に Psychiatry and Clinical Neurosciences (PCN) 誌が本学会の英文機関誌となり、アジアのハブジャーナルとして位置づけられ、本学会員の原著論文発表の場として活用されている。学術総会も大きく様変わりした。専門医制度がスタートしてから学術総会の参加者数は倍増し、シンポジウムや教育講演が大幅に増加した。そして、専門医制度のスタートにより専門医のための生涯教育の重要性が言われるようになった。

このような状況を背景に本誌は変化してきたが、願わくば会員諸氏の要望に沿った「改善」であってほしいと思っている。本年1月からの第114巻の構成は、「巻頭言」、「精神医学のフロンティア」、「総説、原著、臨床報告、資料、討論」、「特集」、「地方会報告」、「会員の声」、「精神神経学雑誌百年」「PCN だより」「学会活動報告」、「書評」、「関連学会紹介」、「関連学会案内」、「編集後記」、「書評献本リスト」と盛りだくさんであり、編集委員会の企画による部分が増加している。下線部はこの3年間に始まった項目である。

投稿論文は、総説、原著、臨床報告、資料、討論、会員の声に区分して受け付けている。いずれも査読を経て掲載されるが、査読担当者を中心として論文の掲載まで加筆・修正・改編の過程にお付き合いするように努めている。編集委員は、著者が優れた論文を発表できるお手伝いをすべく努力していることをお伝えしたい。

編集委員会が企画する本誌の改善は、「巻頭言」を学会理事が持ち回りで担当することから始まった。「精神医学のフロンティア」はPCN誌に優れた論文を発表した著者に依頼する総説であり、時宜を得たトピックスを心掛けている。「PCN だより」は、PCN誌が本学会機関誌となったことに合わせてスタートしたもので、PCN論文の和文抄録を掲載している。「精神神経学雑誌百年」は、本誌の百年前の記事を紹介するものであるが、1~2ページの論文紹介記事と百年前の論文4ページ分を再掲している。昨年「書評」が始まったが、学会誌としての公平性を維持すべく編集委員が担当して執筆し、あわせて送付を受けた書物のリストを「書評献本リスト」に掲載している。「関連学会紹介」は本学会が精神医学の基幹学会であることから、関連領域の学会紹介を始めたものである。

編集委員会では、近々学会誌の編集方針に関するアンケートを予定していることと、会員諸氏に喜んでいただけるような紙面作りを目指して努力していることを申し述べて本号の編集後記としたい。

(武田雅俊)